

上田町遺跡発掘調査報告書

松原市上田7丁目地内における
宅地造成工事に伴う上田町遺跡 E6-4-110 発掘調査報告書

令和5(2023)年5月

松原市教育委員会

例　　言

1. 本書は、松原市教育委員会が事業者である株式会社ミヤマ産業より依頼を受け、令和4年度（2022）に実施した上田町遺跡の発掘調査報告書である。松原市教育委員会における調査地区番号の呼称は、E6-4-110である。
2. 本調査は、宅地造成工事に伴って実施した。なお、発掘調査・整理作業にかかる費用は事業者が負担した。
3. 発掘調査・整理作業ならびに本書の執筆・編集は、樫木規秀が担当した。
4. 本書で用いた平面座標値は、全て世界測地系（2011成果）による平面直角座標系第VI系の数値で、m単位で表記した。また、方位は座標北を使用した。なお、水準は東京湾平均海面高（T.P.）を基準とした（例：H=10.00m）。
5. 発掘した遺構は、検出順にアラビア数字で通し番号を付し、その後ろに遺構の種類を文字で付して、遺構台帳を作成した（例：S001土坑）。なお、本書では、紙幅の都合上「S」記号、2～3桁目の「0」を省略した（例：1土坑）。
6. 地層の土色は、小山正忠・竹原秀雄編『新標準土色帖 2016年版』（農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いて目視により比定した。
7. 各図面は、適宜縮尺を変えており、図ごとにスケールバーを掲載し、キャプションに縮尺を表示した。
8. 出土遺物実測図の縮尺は1/4・1/6とした。なお、出土遺物写真的縮尺は任意である。
9. 遺構写真の撮影は樫木が行い、表紙写真ならびに出土遺物写真的撮影は安西工業株式会社が行った。
10. 調査の実施にあたり、事業者及び関係者の皆様にご協力を得た。記して謝意を表したい。
11. 表紙写真は、調査区の北から和泉山地をのぞむ写真である。
12. 発掘調査の掘削・測量、遺構図・出土遺物の整理作業は安西工業株式会社が実施した。
13. 本書の作成にあたり、下記の報告書等を参考にした。
　　堺市教育委員会 1983 「向泉寺跡遺跡発掘調査報告」「堺市文化財調査報告 第12集」
　　堺市教育委員会 2019 「向泉寺跡遺跡発掘調査概要報告」「堺市埋蔵文化財調査概要報告第167冊」
　　白神典之 1992 「堺招鉢考」「東洋陶磁 第19号」東洋陶磁学会
　　難波洋三 1992 「徳川氏大坂城の焰烙」「難波宮址の研究 第九」財団法人大阪市文化財協会
14. 調査に関わる出土遺物・図面・写真等の記録類は松原市教育委員会が保管している。

目　　次

1. 調査に至る経緯と経過	1
2. 位置と環境ならびに既往の調査	1
3. 基本層序	1
4. 発掘調査結果	2
5. 総括	4

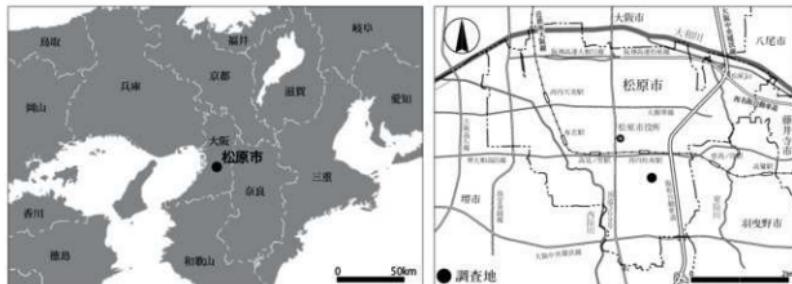


図1 発掘調査位置図

1. 調査に至る経緯と経過

本調査は、事業者である株式会社ミヤマ産業により、松原市上田7丁目121番1の一部において宅地造成工事が計画されたことによる。道路部分を対象に確認調査を実施したところ、一部において中世～近世の遺構・遺物が認められた。

松原市教育委員会は事業者と確認された埋蔵文化財について協議を行い、80m²の記録保存調査を実施することになった。調査は令和4年6月1日より着手し、重機掘削・遺構検出・遺構掘削・写真撮影・実測作業・遺物取り上げ作業を行い、令和4年6月21日付けで、現地調査を終了した。引き続き整理作業を開始し、令和5年（2023）5月31日付けで本報告書を刊行し、全ての作業を終了した。

なお、本調査では、平面図はUAV写真測量で作成し、断面図は手描きで作成した。また、写真撮影は、Canon社製のフルサイズ一眼レフカメラ（EOS 6D）を使用し、RAW・TIFF・JPEG形式でデータを保存している。

2. 位置と環境ならびに既往の調査

松原市は大阪府のはば中央に位置する面積16.6 km²人口116,842人（令和5年4月時点）の都市である。

市域の東側には、羽曳野丘陵からのびる瓜破台地、西側には陶器山丘陵からのびる泉北台地があり、その間には沖積地が広がり、扇状地となる。市域の北を西流するのは宝永元年（1704）に付け替えられた大和川で、瓜破台地の裾を東除川、泉北台地の裾を西除川が北流する。

上田町遺跡は旧石器～近世の集落跡・生産遺跡で、松原市上田1～7丁目、柴垣1丁目に所在する。日下雅義氏の地形分類図（『松原市史』第1巻所取）では中位段丘から低位段丘に位置する。現在の標高は概ね26～27mである。

上田町遺跡では、遺跡北部で弥生時代後期の水田や弥生時代後期～古墳時代初頭の土器がまとめて出土していることが知られている。

調査地近隣の過去の調査には、E6-4-27・38（未報告）がある（図2）。E6-4-27では、室町時代の落ち込み及び江戸時代後期の土坑や柱穴が確認され、近世と考えられる土鉢（図3）が出土している。38では、鎌倉時代頃の継板組の井戸枠をもつ井戸や中世の溝のほか、江戸時代の漆塗の埋蔵遺構などが

みつかっている。

調査地は、江戸時代には河内国丹北郡松原村上田にあたり、幕末は館林藩秋元家の領地であった。また、製作年は不詳だが、江戸時代の松原村絵図（『新堂遺跡2』所取）では、屋敷地である。なお、調査地の北東には反正天皇などを祀る柴籬神社がある。

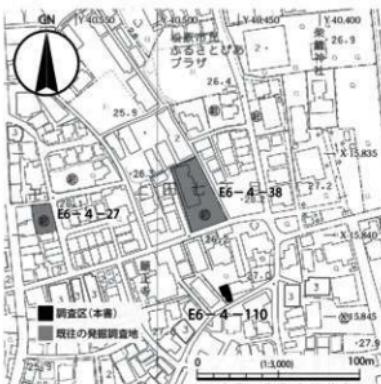


図2 発掘調査区・既往の調査地位置図 1:3,000



図3 E6-4-27 土鉢実測図 1:2

3. 基本層序

盛土の下に1層または2層の客土層があり、地山である黄橙色細砂～シルトに達する（図4）。遺構面は1面で、標高約26.3mである。

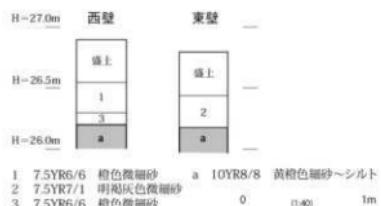


図4 基本土層柱状図 1:40

4. 発掘調査結果

本調査では土坑7基、火葬墓1基、溝1条等を確認した(図5)。以下、主要遺構を報告する。

2土坑(図7・9・12・17) 長軸3.35m以上、短軸0.7m以上、深さは1mで、3・5・7・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21の土坑を切る。

遺物は第1層からまとめて出土した。1～4は肥前磁器の染付碗である。5・7は土師器火鉢である。7の平面は隅丸の長方形を呈する。6・10は軒丸瓦である。8～9は堺擂鉢である。11は漆塗土師器壺である。これらの時期は、18世紀前半～中頃で、2土坑の埋没時期を示す。

3土坑(図6・10) 長軸3.8m以上、短軸1.4～3m以上、深さ0.1～0.4mで、2土坑・9井戸に切られる。遺物は14世紀後半～15世紀前半の瓦質土器羽釜12のほか、近世陶磁器が出土した。

6土坑(図6・8・10・13・14・18・19) 長軸1.3m、短軸1.1m以上、深さ0.3mである。遺物がまとまって出土しており、廃棄土坑と考えられる。

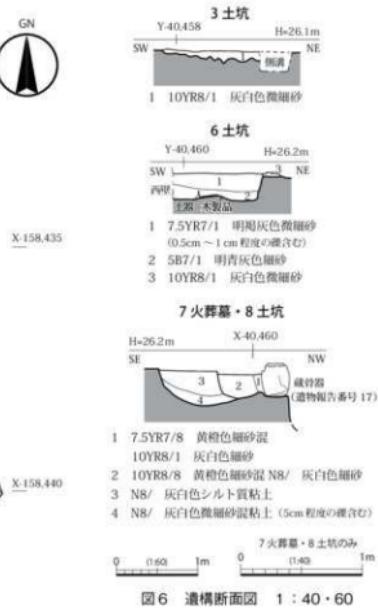
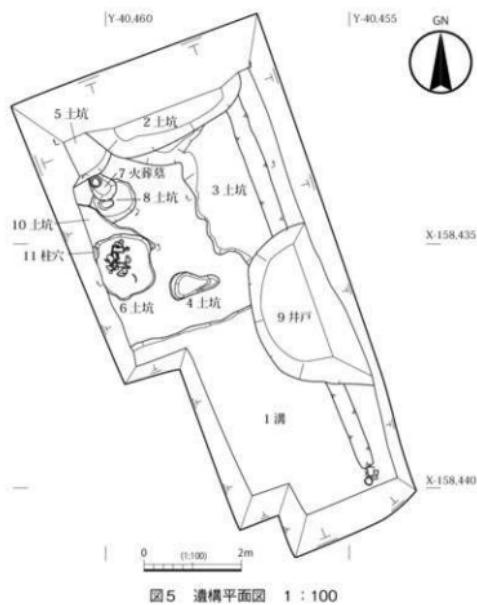
土師器火鉢13は平面が梢円形を呈し、奥側が一段高くなる。青緑釉陶器皿14は、見込は蛇の目釉剥ぎで、17世紀末～18世紀前半である。土師器壺

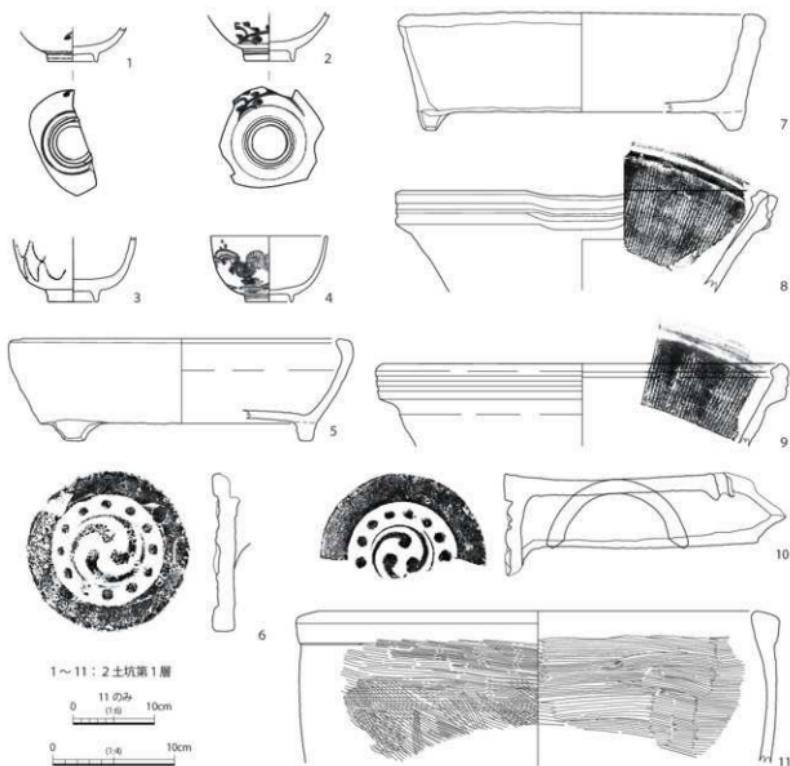
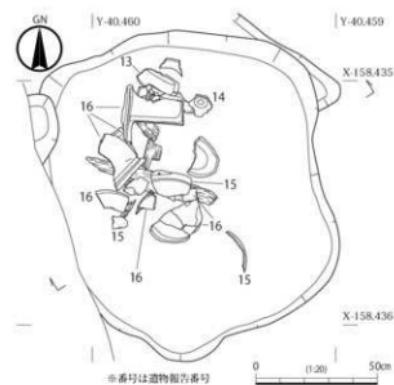
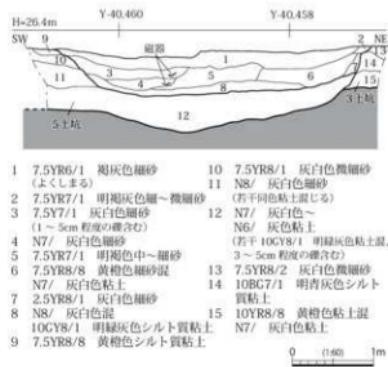
15は穿孔付きの把手をもつもので、内面に煤が付着する。時期は17世紀末～18世紀前半である。土師器舟瓶16は屋外で湯茶を沸かす際に用いるもので、内面に煤が付着する。18世紀前半～中頃のものだろうか。このほか木製板も出土した。廃棄の時期は18世紀前半～中頃と思われる。

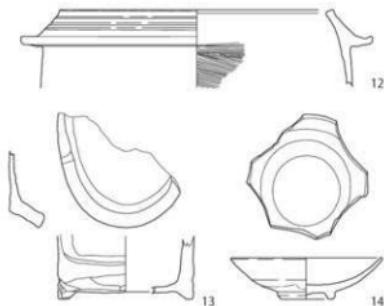
7火葬墓(図6・10・15・20) 長軸0.6m、短軸0.3～0.5m、深さ0.2mをはかる。5土坑に切られる。

内部から少量の骨片が出土した骨器の漆塗土師器壺17が埋納されていた。壺の外面は叩き、内面はナデで整形される。口縁部は一部欠損するが、意図的かは不明である。蓋は伴わず、埋土が壺内部に流入していた。壺の時期は17世紀中頃と思われる。なお、地上標識は確認できなかった。

1溝(図11) 幅・長さ4.4m以上、深さ0.5mをはかる。鎌倉時代～近代の遺物（大半は近世～近代）が出土した。近世以降に掘削され、ビール瓶の出土から近代に埋没したといえる。以下、出土遺物を報告する。18は唐草文と思われる文様をもつ軒平瓦である。19・21は平瓦で、凸面に19は叩き痕、21は□房の刻印を有する。20は界線をもつ連珠文軒平瓦で、14世紀代と思われる。







12: 3土坑
13～15: 6土坑
第1層
16: 6土坑第1層
一部の破片は第2層
17: 7火葬墓
0 (1:4) 10cm 0 (1:6) 10cm

図10 出土遺物実測図(2) 1:4・6

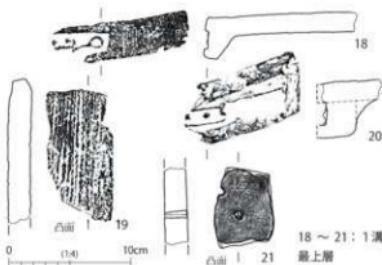


図11 出土遺物実測図(3) 1:4

5. 総括

本調査では主に中世の遺物と江戸時代の遺構・遺物を確認した。本章では時代順に総括を行う。

明確な中世の遺構は確認できなかったが、3土坑や1溝から中世の遺物が出土し、近隣の調査でも中世の井戸や溝が確認されているため、調査地周辺に中世の遺構が所在すると考えられる。

江戸時代では前期の火葬墓、中期の廐棄土坑等を確認した。まず、良好な状態で検出した17世紀中頃と思われる7火葬墓について述べる。

蔽骨器は在地製品を使用しており、被葬者は農民層と推察される。単独である点や後の土地利用から、屋敷地内に造られた屋敷墓の可能性を考えたい。ただ、7火葬墓は18世紀前半以前の5土坑に切られるため、後の時期には被葬者と血縁関係にない者が屋敷地の主になった可能性がある。

他方で、調査地周辺の村の集団墓地は、約400m北東の上田墓地である。現在、江戸時代後期の墓碑がみられるが、墓地の成立時期は不明である。7火葬墓は村の墓地の成立前のものか、墓地の成立後でも何らかの理由により、屋敷地内に埋葬されたものかは今後の課題である。今後の事例の蓄積が待たれるが、7火葬墓は調査地周辺における近世の墓制を考える際の良好な事例といえる。

この後、18世紀前半～中頃には2・6土坑の存在より、調査地は屋敷地としての利用が明確になるが、遺構の状況からは裏庭の空間とみられる。

なお、1溝の検出地点は前述した江戸時代の絵図では溝が描かれている。この溝は同絵図に描かれ、現存する調査区南側の道に沿う蟹野池からの灌漑用水路である。掘削時期は不明だが、1溝は灌漑施設の整備の状況をうかがう資料となる。



図 12 2 土坑断面（南東から）



図 13 6 土坑上層遺物出土状況（南東から）



図 14 6 土坑下層遺物出土状況（南東から）



図 15 7 火葬墓・8 土坑断面（北東から）



図 16 調査区全景（北西から）



図 17 2 土坑出土遺物集合



図 18 土器器焰壺



16

図19 土師器舟壺



17

図20 土師器甕

報告書抄録

ふりがな	うえだちよういせき						
書名	上田町遺跡						
副書名1	松原市上田7丁目地内における宅地造成工事に伴う上田町遺跡E6-4-110発掘調査報告書						
シリーズ名	松原市文化財報告						
シリーズ番号	第14冊						
編著者名	樺木 規秀						
編集機関	松原市教育委員会						
所在地	〒580-8501 大阪府松原市阿保1-1-1 TEL 072-334-1550 FAX 072-332-8550						
発行年月日	令和5年(2023)5月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	発掘期間	調査面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
上田町遺跡	大阪府 松原市上田7丁目	27217	30	34° 34' 15"	135° 33' 32"	20220601 ~ 20220621	80m ²
取録遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上田町遺跡	集落	中世～近世	火葬墓、土坑	土師器、陶磁器、瓦、瓦質土器	近世(17世紀中頃)の湊焼土師甕を 蔵骨器とする単独の火葬墓を確認。		
要約	明確な中世の遺構は確認できなかったが、中世の瓦質土器が近世の土坑から出土したほか、中世の瓦も近代に埋没した溝から出土しており、中世における人々の活動の存在がうかがえた。 近世の遺構は火葬墓、廐棄土坑を確認した。火葬墓は湊焼の土師甕を蔵骨器とし、内部に少量の骨片を確認した。18世紀前半～中頃の廐棄土坑からは土師器舟壺・焰硝等がまとまって出土した。						

松原市文化財報告第14冊

上田町遺跡

松原市上田7丁目地内における宅地造成工事に伴う上田町遺跡
E6-4-110発掘調査報告書

【編集発行】松原市教育委員会

【発行日】2023年5月31日

【印刷】能登印刷株式会社